

看護小規模多機能ライフニティ石打 第4回 運営推進会議

日時：2025年2月19日 13時30分～14時30分

参加者：富所・田村・井上・常山・内田・川永（つむぐ）・南雲（つくしの家）・中島（介護保険課）・上一日市区長・民生委員・宮澤

欠席：家族代表

進行：田村 書記：宮澤

1. 事業所の運営について報告

2024年4月～年12月利用者の利用人数、平均介護度、平均年齢などの推移を確認。12月の平均介護度は2.77。利用登録人数は減っているが、1日平均利用者は増えている傾向にある。利用者の1カ月の利用回数が増えている傾向にある。また、宿泊利用が増えている傾向にあり。訪問介護、看護のサービスが少ない傾向にあるため充実を図りたい。ネグレクトのケースで宿泊を継続している利用者あり。塩沢地域包括と協力して対応に当たっている。

2. インシデント・アクシデント事例報告、対策取り組み報告

別紙参照。誤飲について、食事に集中できるようにテレビを消して音楽のみ流すようにした。アクシデントにて車椅子の転落事例あり。対策として職員全員で研修会を実施し、同様の事例は発生していない。車両の事故でパーキングの入れ忘れで自動車が動き出してしまったインシデントがあった。

中島：衝突したりしたか？施設の敷地内での事故か？

→利用者宅での事故。利用者宅の雪囲いに接触したが損傷などの事故は起きていない。

3. 利用者・家族・職員・外部からのアンケート調査結果への対策案及び介護福祉士としてのライフニティ石打の方向性

● 利用者・家族・職員・外部からのアンケート調査結果

家族様アンケートより

① スタッフ間の情報共有がない。

業務後に夕礼を行い、看護師、ケアマネ、介護士で一日の状況報告や家族からの伝言などの報告を行うようにした。利用、送迎の漏れがないように作成者以外の職員でダブルチェックを行うようにした。

② 日曜日の送迎を開始してほしい。

職員が増員されたため、送迎を開始した。

③ 介護用品不足で連絡がくる。本人の体形に合わせ施設で準備してほしい。

様々なサイズのおむつや尿取りパットを取りそろえた。聞かれた都度、スタッフが説明を行えるように、受け持ち担当職員がおむつ、パットのサイズをピックアップしている。

- スタッフアンケートより

- ① ケアの統一ができていない、同じ方向を向いていない、施設なのか病院なのか職員の対応が異なる。

月一回のケア会議で、利用者様の対応や変化について話し合いを行っていた。事象の発生から会議まで時間差があり、対応もまちまちであった。利用者様の状況変化や特記事項がある時に毎日カンファレンスを行うことで、対応の検討までの時間差がなくなり、統一ができるようになった。

- ② 介護知識以外のアンガーマネジメント、コミュニケーションの方法の学びが必要

職員のスキルアップのため介護福祉会研修等の外部研修に参加できる環境を作り、質の向上につなげていく。

- ③ 外出の機会、おやつや食事のリクエストを聞く機会が少ない

外出レクを1回度行い、非常に好評だった。次年度からのレクリエーションを楽しみにしてもらえるように、外出レク、イベント食レクを増やせるように協議する。

- 介護福祉士としてのライフニティ石打の方向性

ご家族様、ご利用者様に安心して安全な介護の提供ができるように、介護福祉会研修の参加や勉強会を通じて介護士の知識を高めていきます。

4. 利用者家族からのご意見

欠席のため聴取できず。

5. 会議参加者からのご意見

南雲：

小多機にて外出は、スーパーのイートインスペースの活用や湯沢の足湯など、小規模なもので月1回は外に出る機会がある。天気の良い日は敷地内の外で食べるなど、外へ出る機会を増やしている。来月、小多機の会で嚥下に関する研修会を行うのでぜひ参加してほしい。

川永：

湯沢町などでも研修を行っているので、参加できるようなら出てみては。石打地域にてデイサービス事業が新規受け入れを停止しているため、サービスが組みにくい。看多機で受け入れができたなら良いと思うことがあり。また、ショートステイ事業も縮小しており、群馬へ行くケースが増えている。

上一日市区長・民生委員：

地区内でも施設のことをよく知られていない事もある。見学ツアーや地域への呼びかけなど地域密着に近づけるように活動してみてもどうか。

井上：

南魚沼市内にて訪問看護ステーションが 1 つ閉所した。利用者の引継ぎを数件受け入れた。市内に訪問看護事業を行っているところが 4 カ所となっしまい、サービスを行うにも供給が圧倒的に不足している。今後の要介護人口の増加が見込まれる中、在宅での介護難民が発生することを懸念している。

次回推進部会日時：後日日程を連絡する。